

魅力あるまち① みどりを訪ねて

所沢市は、都市のにぎわいから一步足を延ばすと、狭山丘陵の美しいみどりと湧き水が作り出す水辺、武蔵野の面影を残す林や農地など、長年にわたり人々に親しまれてきた身近なみどりが数多く残されています。身近に残る、そうした貴重なみどりや水の豊かさ・美しさは、多くの市民との協働により守られており、今も所沢市に心地よい潤いをもたらしています。

まちとみどりが共存している所沢だからこそ、ふらっと散歩に出掛ければ、その豊かさに触れることができる。あなたの身近にある安らぎのスポットを気軽に訪ねてみませんか。

～平地林～ 身近なみどり

所沢の北部に広がる武蔵野地は、かつては水が得にくく、人が住むには向かない土地でした。

江戸時代に行われた新田開発に伴い、この地域にも畑が作られました。元々は樹木も生えない乾燥した土地だったため、人々は木を植え、畑や家を風から守りました。

やがて木々は土地に潤いをもたらすようになり、また人々はその落ち葉を堆肥として利用し、燃料となる薪を得るなど、農業を営む生活にはなくてはならない存在となっていました。

それらの木々は、今日では「平地林」と呼ばれ、多くの人の保全活動により、今でも身近なみどりとして生きています。



若狭山の神市民の森・若狭地蔵市民の森

若狭の住宅地にある近接した2つの樹林地です。この林が生まれるきっかけとなった新田開発は、大変な苦労を伴うものであったため、開拓の成功や健康を願って神仏がまつられたといわれています。



くぬぎ山（駒ヶ原特別緑地保全地区）

武蔵野地最大級の平地林として、市の北端に広がっています。過去には産業廃棄物の焼却炉が建てられ、多くの自然が傷ついてしまいましたが、地域の人々などの尽力の結果、今では希少な動植物が数多く息づくまでに回復しました。



旧鎌倉街道沿里山保全地域

かつて鎌倉と北関東を結んでいた街道筋の樹林です。

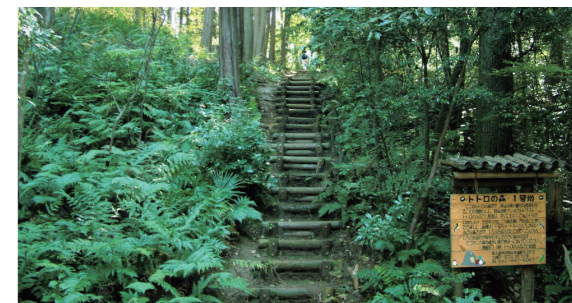
街道の名残とともに保全された樹林からは、古き時代の面影が感じられます。樹林を抜けた先には農地が開け、地元の散策スポットとして親しまれています。



～狭山丘陵～多様で豊かなみどり

埼玉県南西部及び東京都北西部にまたがる武蔵野台地のほぼ中央に位置し、東西約11km、南北約4kmの丘陵地です。上空から見ると独立した島状になっているのは、大昔の多摩川が削り取った大地の残りだからです。樹林地や湿地、茶畑や果樹園など多様な環境を有し、多くの生きものが生息・生育する、地域を代表する豊かなみどりの地帯です。

宮崎駿監督の映画「となりのトトロ」の舞台のモデルの一つになったといわれており、丘陵には「トトロの森^{*}」が点在しています。



※トトロの森
自然や文化財を保全する「(公財)トトロのふるさと基金」が企業や市民の寄付を募って取得し、ボランティアにより維持管理され、守られている森です。(2020年7月現在、1～54号地まであります)



狭山湖（山口貯水池）

市内を流れる柳瀬川の上流をせき止めて作られた人造湖で、東京都の水がめとしての機能を担っています。

周辺には木々が広がり、鏡のような湖面とともに桜や新緑、紅葉といった四季折々の美しい景色や、オオタカや水鳥の観察などを併せて楽しむことができます。



オオタカ



上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域

貴重な里山の原風景が残されている地域です。明るく広がりのある雑木林と、豊かな湧き水や湿地が、多様な生きものが生息する環境を作り出しています。



荒幡富士特別緑地保全地区

カタクリなどの希少な林床植物が残る、豊かな植物相が見られる緑地です。地区内には、明治時代に地元住民が作り上げた日本有数の大きさを誇る人工富士「荒幡の富士」もあり、地域住民がその保存と緑地の保全に取り組んでいます。



菩提樹池里山保全地域

菩提樹池は、元々は農業用の用水池で、地元の人々の活動により修復されました。復田された田んぼとともに美しい里山の風景が戻り、初夏にはホタルが舞うなど様々な生きものが集まる森のオアシスとなっています。谷あいの地形には水が集まり、湿地が形成され、周囲の雑木林とともに谷戸の風景が楽しめます。